YASKAWA

株主のみなさまへ

株式会社 安川電機
第111期中間ご報告

2026年3月1日 ▶ 2026年8月31日

(証券コード：6506)

株式会社 安川電機



株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、2026年度中間期における当社グループの経営環境は、地政学的リスクなど先行き不透明な状況が続く一方、AI関連投資を背景とした半導体およびデータセンター向けの設備投資需要が堅調に推移しました。

ACサーボ事業では、半導体、電子部品、工作機械関連を中心に販売が伸長し、全地域で売上収益が増加しました。インバータ事業でも、データセンター向け空調設備や半導体製造装置向け真空ポンプ用途に加え、オイル・ガス関連需要が堅調に推移し、売上収益は前年同期を上回りました。ロボット事業は、日本および欧州で市場環境の影響を受けたものの、米州および中国での自動車市場や一般産業向けの販売が堅調に推移し、売上収益は前年同期並みとなりました。

一方、5月に実施した基幹システム「SAP S/4HANA*1」への移行に伴い、生産・出荷面で一時的な影響が発生し、高水準の受注を売上・利益へ十分に結び付けることができませんでした。この結果、売上収益は増加したものの、営業利益は前年同期を下回りました。

2026年度下期は、開発・生産・販売の各面で取組みを加速します。

開発面では、AIロボティクスを中核としたフィジカルAI分野への取組みを強化し、自律型AIロボット「MOTOMAN NEXT*2」や人協働ロボットの市場展開を推進します。また、農業分野や医療・医薬品分野での取組みを通じ、新たな成長領域の拡大を図ります。

生産面では、SAP S/4HANAの運用安定化を最優先課題とし、生産・出荷体制の正常化を進めます。

販売面では、「i³-Mechatronics*3（アイキューブ メカトロニクス）」を核としたソリューション提案と戦略製品の拡販を推進し、米国やインドを中心に事業基盤を強化するとともに、重点市場での受注拡大を図ります。

当社グループは、お客さまとの信頼関係を基盤に事業を運営するとともに、AI活用や業務改革を通じて企業価値向上に取り組んでまいります。また、「One YASKAWA」のもと、グループ一丸となって高収益体質の確立を目指します。

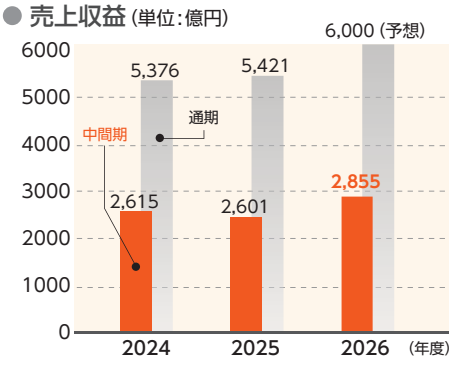
株主のみなさまにおかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申しあげます。

*1：SAP社が提供する次世代ERP（基幹業務システム）。販売・生産・調達などの業務データを統合管理し、経営の効率化と高度化を支援する。
*2：2023年11月より販売を開始した、業界初の自律性を持ったAIロボット。ロボット自身が周辺環境に適応し、判断・実行する。
*3：2017年に当社が提唱したソリューションコンセプト。データ活用と自動化を融合し、生産現場の最適化と生産性向上を実現する。

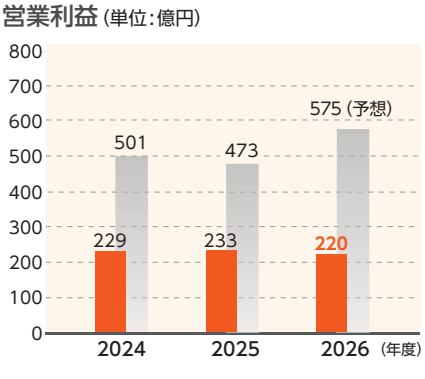
2026年11月

代表取締役会長兼社長　小笠原 浩

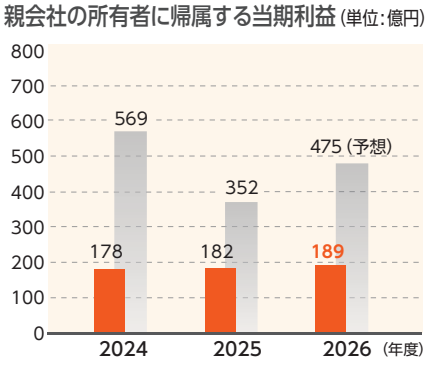
● 売上収益（単位：億円）



● 営業利益（単位：億円）



● 親会社の所有者に帰属する当期利益（単位：億円）



長期経営計画「2035年ビジョン」と中期経営計画「Dash 35」

安川グループは、2026年度より長期経営計画「2035年ビジョン」をスタートしました。私たちは、「技術革新によりMechatronics領域を拡大し、社会の持続的な発展に貢献する」ことを目指し、AIやデータ活用の進展によって生まれる新たな市場機会を成長につなげていきます。

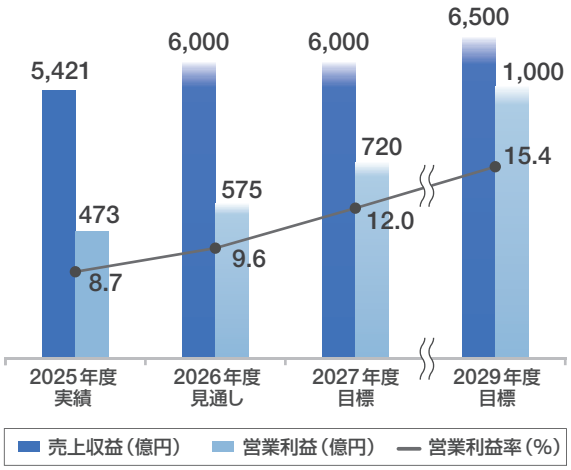
その実現に向けた第一フェーズとして、2026年度から2029年度までの4年間を対象とする中期経営計画「Dash 35」を推進しています。「Dash 35」では、コア領域の徹底した高収益化とフィジカルAI市場の開拓を両輪に、持続的成長の基盤づくりに取り組みます。



中期経営計画「Dash 35」の財務目標

売上収益	営業利益	営業利益率
6,500億円	1,000億円	15.4%

ROE	ROIC	配当性向
12.0%以上	11.0%以上	40.0%以上



詳細の閲覧はこちらから

2035年ビジョン

Dash 35

「Dash 35」の基本方針

① フィジカルAI市場の開拓

AIロボット「MOTOMAN NEXT」を核にAIロボティクスの社会実装を加速し、自動化が困難だった領域へ適用を拡大。
ヒューマノイドや進化型アクチュエータをはじめとする基幹部品の開発を通じて、ヒューマノイドロボットを含む多様なフィジカルAI市場の開拓に取り組みます。

② i³-Mechatronicsの実践拡大

「コト」のデータ化を通じてi³-Mechatronicsの実践をグローバルに拡大。
ソリューション提案力や生産・調達基盤を強化し、売上成長と収益力向上を目指します。

③ 世界一にこだわる新製品開発

安川テクノロジーセンタ(YTC)を核にコア技術の進化と現場データとAI活用のシナジーによる世界一の技術開発を推進。
産学連携や協創により新製品創出を加速します。

④ 新メカトロニクス応用領域の事業拡大

メカトロニクス技術の応用とパートナーとの連携を通じて、農業・食品・医療分野への自動化ソリューション展開を加速。
FA領域を超えた新たな事業機会の創出に取り組みます。

⑤ YDXの進化とi³-Singularity*

データとAIを活用したYDXを進化させ、販売・生産・技術・品質をつなぐ経営基盤を構築。
更にi³-Singularityの実現により経営と事業運営の高度化を図ります。

＊:i³-Singularity(アイキューブ シンギュラリティ):これまで取り組んできたi³-MechatronicsにAIを組み合わせることで、その実行力を拡張・飛躍させていく考え方。

セグメント別の概況 (2026年度 中間期)

モーションコントロール

ACサーボモータ・コントローラ、インバータなどの製品は、機械や生産設備の高度化・省力化に貢献しています。

■経営成績

ACサーボモータ・コントローラにおいては、半導体・電子部品関連や工作機械向けを中心に販売が伸長し、すべての地域で増収となりました。

インバータにおいては、データセンター用途および半導体製造装置向けの他、オイル・ガス関連向けの販売拡大などにより、増収となりました。

これらの結果、セグメント全体の売上収益は、データセンターおよび半導体関連投資を背景とした需要拡大を捉え、主に米州、中国および韓国・台湾における販売拡大につなげたことにより前年同期比で増加しました。利益面については、基幹システムの移行に伴う生産・出荷への影響があったものの、売上増加により増益となりました。

売上収益 前年同期比 +21.7%
1,372億86百万円

営業利益 前年同期比 +32.8%
159億73百万円



ACサーボドライブ「Σ-Xシリーズ」



安川インバータ「GA700シリーズ」

ロボット

自動車関連市場を中心に、様々な産業分野において溶接、塗装、組立、搬送などの自動化に貢献しています。

■経営成績

自動車市場向け販売が堅調だった米州や半導体ロボットの販売が好調に推移した中国など海外での販売が拡大したものの、日本における基幹システム移行影響により販売が減少し、売上収益は前年同期比で微減となりました。

営業利益については、売上減少や欧州における事業構造改革費用の一時的な計上などにより、前年同期比で減少しました。

売上収益 前年同期比 △0.7%
1,184億4百万円

営業利益 前年同期比 △43.3%
59億74百万円



AIロボット「MOTOMAN NEXTシリーズ」

システムエンジニアリング

1世紀にわたり培った技術と豊富な実績により、社会の安全・安心と豊かな暮らしを支えます。

■経営成績

港湾クレーン関連等の販売が拡大したことにより、売上収益は前年同期比で増加しました。
利益面についても、売上増に加え案件の採算改善により大幅な増益となりました。

売上収益 前年同期比 +11.2%
207億78百万円

営業利益 前年同期比 +79.5%
34億80百万円

トピックス

ソフトバンクと柔軟物体のハンドリングシステムを実証

ソフトバンク株式会社が開発を進める「AIデータセンター GPUクラウド」を活用し、AIロボット「MOTOMAN NEXT」で開発する柔軟物体のハンドリングシステムを実証しました。ひも、布、袋、ワイヤハーネスなどの柔軟物体はロボットによる取扱いが難しいとされていましたが、AIが視覚情報などを基にリアルタイムに学習してロボットに的確な指示を出すことで、ハンドリングを安定して行えることを確認しました。長年培ってきたロボット制御技術とフィジカルAIを組み合わせ、これまで自動化が難しかった作業領域へのロボット適用拡大を目指します。

トピックス

自律型AIロボット「MOTOMAN NEXT」の活用事例

当社は、自律型AIロボット「MOTOMAN NEXT」により「食品」「物流」「バイオ」など幅広い現場で、人の経験や感覚に依存してきた作業の自動化に取り組んでいます。例えば、製薬や食品製造などの粉体計量工程では、AIが粉体の状態を認識し、最適なすくい取りと微量の調整を自律的に実施することで、高精度な計量の自動化を実現します。物流分野では、倉庫での箱詰め工程でAIが対象物の大きさや重さ、壊れやすさから取出し順や配置を判断し、ロボットが最適な箱詰めを行います。また、バイオ分野では、細胞培養工程にてAIが細胞の状態を判断し、その結果に応じてロボットが培養作業を自律的に行うことで、品質安定化と作業効率化に貢献します。当社は今後も「MOTOMAN NEXT」の適用領域を拡大し、労働力不足や技能伝承といった社会課題の解決を通じて、持続的な企業価値向上を目指してまいります。



上：粉体計量、左下：箱詰め作業、右下：細胞培養工程

YASKAWAレポート2026発行のご案内

YASKAWAレポート2026では、製品販売からお客さまの課題解決を支えるソリューション企業への進化を説明しています。AIロボティクスや新メカトロニクス応用領域の拡大と、YDXによる経営基盤強化を通じて、中長期的な成長と企業価値向上への道筋を示しています。右のQRコードからぜひご覧ください。

● 株式の状況 (2026年8月31日現在)

■発行済株式の総数 …… 266,690,497株

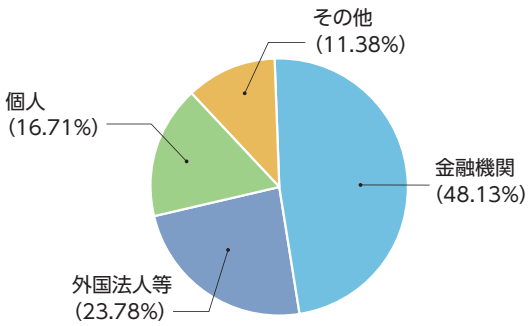
■株主数 …… 145,073名

■大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	48,219	18.54
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	30,846	11.86
明治安田生命保険相互会社	7,230	2.78
株式会社みずほ銀行	5,400	2.08
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行退職給付信託口)	5,208	2.00
株式会社福岡銀行	5,100	1.96
JP MORGAN CHASE BANK 385781	3,798	1.46
株式会社西日本シティ銀行	3,438	1.32
THE BANK OF NEW YORK MELLON AS DEPOSITARY BANK FOR DR HOLDERS	3,171	1.22
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	3,038	1.17

(注)持株比率は、自己株式(6,624千株)を控除して計算しております。

■所有者別株式分布状況



■配当金情報

第111期(自2026年3月1日 至2027年2月28日)配当金		
中間配当	1株につき	36円
期末配当	1株につき	36円(予想)
年間	1株につき	72円(予想)

■株主・投資家情報

経営方針や決算情報、株式事務手続などについては、ウェブサイトからご覧いただけます。

■株式に関するお問い合わせ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号　みずほ信託銀行　証券代行部

フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 午前9時～午後5時)

※本冊子に記載の数値は切り捨て、比率については四捨五入しており、決算補足資料など他資料と異なる場合がありますので、ご了承ください。　※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

YASKAWA
株式会社 安川電機

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています
UD FONT